

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No. -（事務局用）	自治体提示の地域課題名 地域コミュニティにおける課題の設定と解決に向けた協働による新たな取り組み	自治体名 那覇市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	放課後居場所づくり「わくわく嶺っ子クラブ」		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 （公開）	なは市民協働大学院 首里チーム☺		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数 （公開）	6名 お助けメンバー 4名 計10名		
代表者 （公開）	神谷 あゆみ		
メンバー （公開）	土屋 恭子、内間 直子、崎山 裕太、金城 亮太、比嘉 祐子		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入➡ ○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

社会課題の一つである、ウェルビーイングへの志向の高まりが、首里石嶺地域でも同様にあります。地域調査からは、ウェルビーイングを無意識に求めており、特に地域の人々とのつながりづくりのニーズが高い状況です。これらを求める要因として下記の3つがあげられます。

- ・地域コミュニティの基盤となる自治会ない地域（自治会空白地域）が多い
- ・子どもの居場所数が少ない、
- ・児童館や公民館が小学校区内にない、公園や広場が少ない

★要因のまとめとして、地域の人が顔を合わせる拠点がなく状況である

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

○何をするか・・・

地域の人々が繋がり、自他ともによりよく生きる地域をつくるために、こどもの居場所をとおして、地域に関わる人々の素敵なふるさとづくりをします。生活の中で関わった地域が素敵な場所だったと思える事は、幸せなことです。その幸福感が安全・安心に暮らせる環境を継続的に整え生活基盤を維持する事に繋がると考えます。

- 要点 -

地域に関わる人の心の寄りどころ
ふるさと（郷土愛）を育みたい

場所は
石嶺町民会館

子どもの居場所づくりを通じた
地域の憩いの場づくり



その名は、わくわく嶺っ子クラブ、集う場所は石嶺町民会館、通称ミネコヤです。石嶺小学校児童の愛称である嶺っ子と寺子屋をかけ合わせました。

○誰がするのか・・・

首里石嶺地域にいる想いや得意を持つ人たちです。まずは、私たち首里チームがコンテンツ提供や人材発掘を行っていきます。もうすでに、ステークホルダーの輪が広がっています。

ステークホルダーのみなさん

石嶺小学校区まちづくり協議会、石嶺北翔会、石嶺小学校 PTA、Lu Café Du Cahteau 今井淳、2019 年度なは市民協働大学院首里チーム、なは市民協働大学院チアーズ

○どこでするのか・・・

具体的に、石嶺町民会館を拠点とした地域の憩いの場で、日常的な活動と非日常的な活動の二つの面から、コミュニティや社会活動を豊かにする空間づくりを目指します。

- 要点 -

ミネコヤでの活動 コミュニティや社会活動を豊かにする空間

日常

居心地のよいくつろげる場所



まちの人が気軽に集う空間

放課後の子どもの居場所は自由な空間

非日常

多様なイベント開催



例えば・・・

防災（アート）キャンプ

シアターナイト

音楽とアートのイベント

地域主体で取組む

日常では地域のみなさんが気軽に集い、シニアが生きがいづくりに取り組んだり、子どもたちが自由に過ごせる場所を目指します。また、非日常のイベントとして、市内外、県外、海外から想いのある人たちと一緒に音楽やアートなどのイベントを地域主体で実施します。このような、私たちの生活にちょっとした刺激とうるおいをもらえる取り組みをとおして、居心地のよい地域の憩いの場となることを目指します。

○石嶺町民会館とは・・・

首里石嶺地域の有志が地域のために建てたいわゆる自治公民館です。館を所有している地域最大の自治会が令和元年に活動休止しており、現在、月数回の利用のため、施設の老朽化が進むことが懸念されています。施設利用に係る光熱費等は、電柱敷地料の収入で賄われているため利用者の施設理由料を抑えることができます。施設の鍵の管理を任されている石嶺北翔会は、地域のために活用したいが、どのような活用があるか模索しています。そこで、地域の思いが詰まった石嶺町民会館を拠点として、地域のみなさんが主軸となり協働しながら、施設の活用や居場所づくりが可能になると考えました。



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

○なぜこのアイデアにたどり着いたのか。。

・地域ヒアリング

私たち首里チームは、那覇市の首里石嶺地域に興味関心そして地域をより良くしていきたい想いや得意を持つメンバーが集まっています。特に子供やシニア世代に関する社会課題認識を持っていることが共通しています。をそこで、地域を知るべくフィールドワークを実施しました。

首里石嶺地域には想いのある方が多くおり、地域を良くする「ちむぐる※」を引き継ぎ、

加えて、取組む人材がたくさんいると良いね。小学校の保護者の方からは、子どもたちが安心して過ごせる場所があると良いね。など、特に、地域の人が集まる場所がない。と、地域の多くの方から意見がありました。

※ちむぐる：沖縄方言（ウチナーグチ）で「人の心に宿るより深い思い、真心」のこと。思いやりや助け合いの精神など心の優しさや豊かさを表した言葉です。



多世代交流ができると良いね。拠点が欲しいな。
石嶺地域をより良くする「ちむぐる」を引き継いでいきたいね～



子どもたちが安心して遊べる場所が欲しいです。
学校の部活も充実しているけど、帰宅部の子ども達が過ごせる場所があると良いですね。

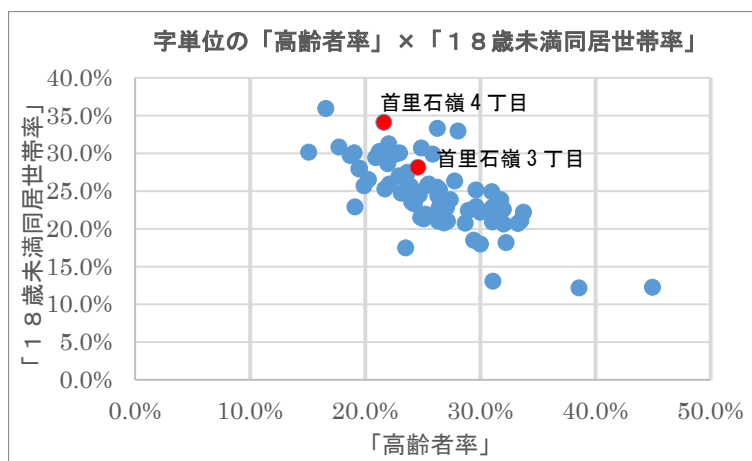


ゆんたくは、子どもからお年寄りまでみんなを元気にするよね～。ゆんたく出来る機会や場所があると良いな。

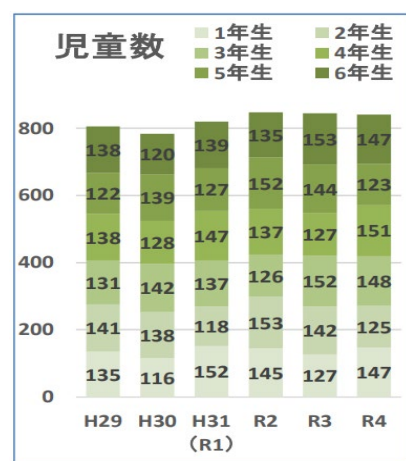
石嶺は小学校区まち協のみなさんが頑張っていますよ。子ども、環境、商工など様々な分野で地域のことをみなが話合っていますよ。



・石嶺小学校区の現況



▲平成27年度国勢調査データより作成



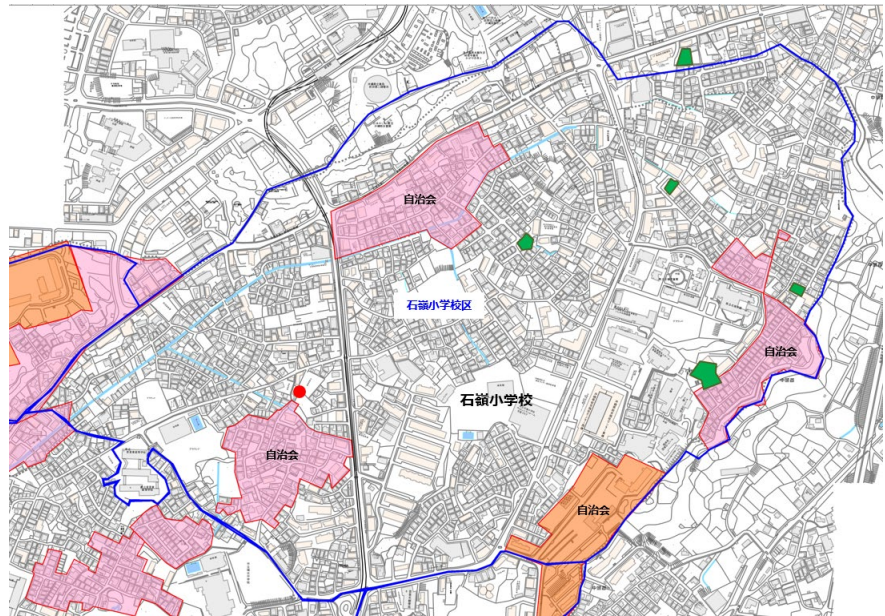
▲那覇市小学校区カルテ（R5年度）より

那覇市の高齢者率は令和2年10月現在で23.4%です。石嶺小学校区の首里石嶺4丁目(24.58%)や3丁目(21.61%)は市内全域では平均的ですが、市内でも高齢者率の高い首里エリア(28.93%)においては、比較的高齢者率が低いことや、18歳未満の同居世帯率が高いことから子育て世代が多く住むエリアであることがわかります。また、石嶺小学校は年々児童数が増えており、令和6年度には市内で2番目に児童数の多い小学校になることが推計されています。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

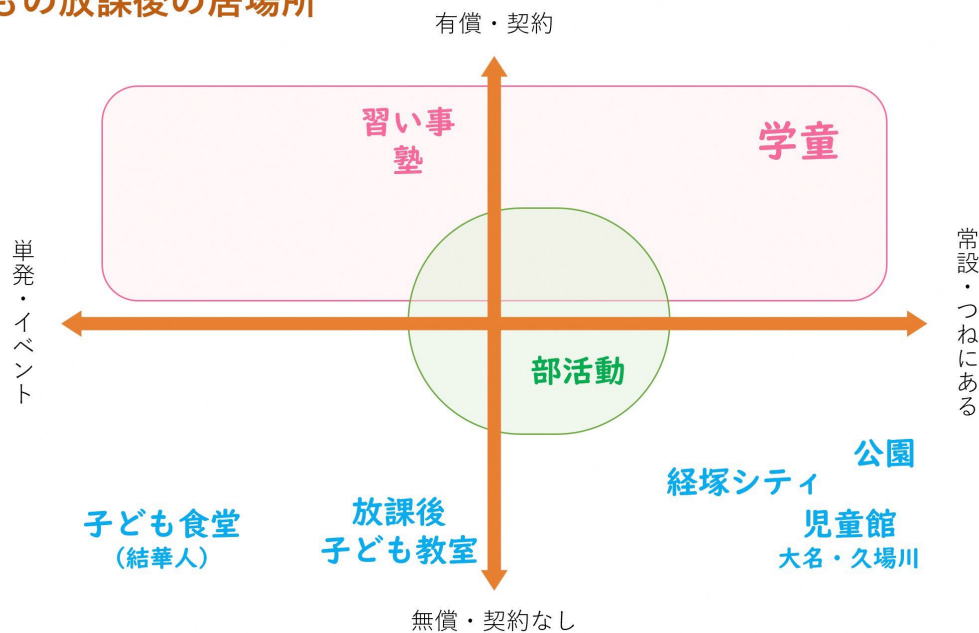
また、地域の放課後子どもたちが過ごす場所の実態調査では、近隣公園が5か所、子ども食堂は不定期開催1団体、放課後子ども教室1か所となっていました。その他どのように過ごしているのか、PTAの保護者からのヒヤリングや子どもたち現状の過ごし方を整理したところ、低学年は放課後学童クラブの利用が多く、中高学年部活動や習い事をする中、帰宅部の子どもたちも3割程おり自宅で宿題やオンラインゲームをして過ごしていることが分かりました。



▲自治会位置図（R5） 凡例：■公園 ●石嶺町民会館

その他、公民館や児童館は、小学校区内から遠く、利用する石嶺小学校区の児童の利用は少ない状況です。下記の図に整理したところ、首里石嶺地域には、常設かつ無償の居場所が少ないことがわかりました。

子どもの放課後の居場所



このような地域の状況から、地域の子どもからシニア世代、地域外から転入してきている人々の居場所づくりが必要と考え、現在、手薄となっている子どもの居場所づくりから取り掛かることを考えました。

子どもの居場所は、そこに集まる子どもたちや子育て家庭にとどまらず、シニアの生きがいがづくりの場や、高校生や大学生の社会体験の場、地域の交流スペースとして多様な役割を担うことができます。この活動をとおして、地域の人々のウェルビーイングに繋げることを目指します。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

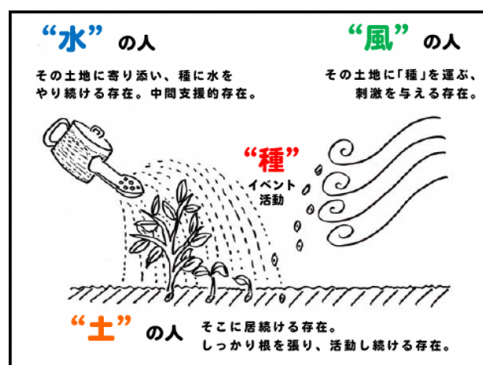
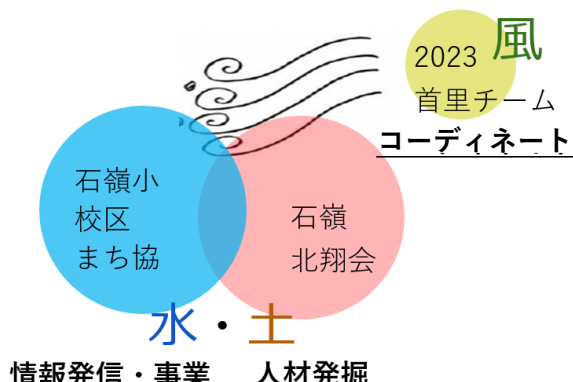
＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

石嶺地域には既にまちづくりの活動や、活動を牽引する地域の方々が沢山います。中でも、**石嶺北翔会**は30年前に青少年の健全育成と心豊かなふるさとづくりなどを目的に結成され、石嶺地域住民の交流を図るなど様々な絆づくりに取り組みられています。また、**石嶺小学校区まちづくり協議会**は、協働によるまちづくりを担う組織として、石嶺北翔会のメンバーも参加しながら、地元地域の内外を問わず様々な人々と一緒に石嶺小学校区内の課題解決に取り組んでいます。

目指すゴールの主体は**石嶺北翔会**や**石嶺小学校区まちづくり協議会**を中心とした地域の人々が拠点づくりを担うことです。そこに至るまで、石嶺北翔会や石嶺小学校区まちづくり協議会と協力し、**私たち首里チームメンバー**も、取組に刺激を与えるコンテンツ提供をや人を繋げたりなど一コーディネイト役として伴走していきます。



©特定非営利活動法人プラス・アーツ

2. 実現に必要な資源

ミネコヤの運営やサポート、コンテンツ提供者などの人材発掘を主体者で行っていきます。特に石嶺北翔会の人脈や首里チームメンバーのネットワークやSNSによる活動の情報発信を行い、ミネコヤの仲間を増やします。人材は、那覇市人材データベースに登録してもらうことで、人材管理や地域のコーディネイトを図っていきます。

また、施設を管理する仲間も必要です。石嶺町民会館を利用する人は施設の鍵の管理を通して鍵仲間として関係性を作っていきます。また、運営や活動資金は当面、助成金（那覇市、銀行、各種助成団体の申請エントリー）を活用しゆくゆくは資金造成（こどもマルシェやバザー、コーヒー豆販売による活動費造成※企画調整済み）を図れるよう取り組みます。

ミネコヤの運営

ボランティアマッチングを活用した
人材集め



助成金と資金造成による
運営資金確保

鍵仲間



キーボックスによる
鍵の管理をととした
関係性づくり

3. 目指す居場所を実現するプロセス

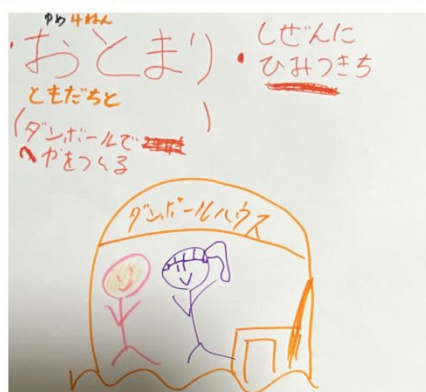
私たちは、すでに今年度、ニーズ調査を兼ねたプレ放課後子ども教室を石嶺小学校区まちづくり協議会の協力を得ながら、また、那覇市の放課後子ども教室事業として実施しています。この活動を今後も月1回継続しながら、2で示した資源や仕組みの中で、1年後は、非日常的なプログラム（海外アーティストとのアートワーク、コーヒー焙煎体験、カチャーシー大会、防災×アートキャンプなど）を4回実施しながら、こどもの居場所づくりを継続していきます。そして地域のシニアサークルやエイサーや旗頭などの青年会、地域会議など3団体程度がミネコヤを定期的にご利用することを目指し、少しずつミネコヤの認知度を上げ、施設を活用する仲間を増やしていきます。施設の活用状況を活動した人自らSNSを通じて地域に発信していきます。ICTをつかいこなせない方もいるでしょう。そんな方にはICT活用講座やサポートをしながら使用できるようにじっくり伴走します。また、施設を間接的に見守る鍵仲間は6団体程度を目指します。そして、当面の間の運営は助成金で賄います。

2年後には、地域の居場所として石嶺町民会館を定期的使用する団体が学生やママ・パパ友会等にも広がり6団体に増え、施設を管理する緩いつながりの鍵仲間は10団体に増え、少しずつ活動運営の資金造成を実施します。たとえば、子どもたちが焙煎した豆やコーヒー販売などで動応援募金などに取り組みます。

そして、3年後には、石嶺地域の豊富な人材や誰をも受け入れる地域性を生かして、多世代が集いえるあたたかい居場所として、いずれかの時間帯で毎日石嶺町民会館が使用され、地域人たちが顔見知り程度になれる場所、住んでいる人が一度は過ごしたことがある場所、多世代の素敵な活動ができる場所になっているよう、地域のみさんと協働して取り組んでいきます。

■ プレ放課後子ども教室

第1回 プレ居場所開催（2023.11.30 学校・地域連携室）※放課後こども教室



▲これから石嶺町民会館でやりたいこと

■今後の活動ステップ

ミネコヤ（嶺っ子×寺子屋）のステップ-

1年後から**2年後**のミネコヤ



ミネコヤ（嶺っ子×寺子屋）のステップ-

3年後には・・・

多世代が集える
あたたかい居場所

- 太極拳の会 ラジオ体操 子育て集う会
- ふれあいデーサービス ゆんたくランチタイム
- クワシの会 カラオケの会 子ども見守り隊
- ソーイング友の会 地域会議
- 旗頭練習 エイサー練習 リラックスのヨガの会

